

AED を意識しよう

AED、自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)は、公共施設(学校、病院、駅、市民ホール、スポーツ施設、野外施設、一部の新幹線、飛行機等)のいたるところに設置しています。メーカーにより形や色も違いますが、使い方においては、大きな差はありません。当大学にも7台設置しています。正面玄関付近、図書館4階、喫茶横、体育館1階入口付近、硬式野球関係屋グランド、Sドーム、学生会館に設置しており、緊急時には確実に使用できるように、機器異常や消耗品交換を遠隔操作と直接確認とのダブルチェック(毎月)管理しているので、是非ともAEDを意識して見てください。家から大学までの通学路でAEDが何台、どこにあるのかも一度チェックしてみましょう。



AEDは優れもの

AEDは専門家(医師、救急救命士、看護師等の医療従事者)の使うもので、一般人はあまり関係ない、触ってはいけないものと思い込んでいる学生がまだまだたくさんいます。約12年前(2004年7月)から一般人も使えるようになり、全国にたくさん普及しています。AEDは、電気ショックが必要かどうか判断してくれる「**診断器具**」であり、電気ショックを与える「**治療器具**」でもあるので、「優れもの」です。人が倒れた、意識がなさそう、呼吸しているのかわからない、そんな状況の時こそ、迷わず使用してください。

「電源を入れてください」「パッドを胸に装着してください」「心電図を解析中です。体に触れないでください」「ショックは必要ありません」「ショックが必要です、充電中です、体から離れてください、ショックを実行します、ボタンを押してください、ショックが完了しました」「直ちに胸骨圧迫、人工呼吸を開始してください」等、バックを開けた時から発生する音声ガイドにただ従っていればいいのです。

AEDを知ろう

AEDは、電源を入れ、電極パットを人の胸に貼ると自動的に心電図を測定し、電気ショックの必要の有無を判断します。心室細動(1分間に300回以上不規則けいれんをする状態)や心室頻拍時に自力で充電(チャージ)し、アナウンス通り、ボタンを押せば電気ショックを与えることができます。心臓が正常に動いている時や、心臓が止まっている時は、電気ショックは、不要と判断し、「**ショックは必要ないです**」とアナウンスされ、電気ショックのボタンを押しても電気ショックできない仕組みになっています。

心室細動を正常なリズムにもどすには、電気ショックを通電し、強制的にリセットする以外にありません。除細動(電気ショック)が1分遅れるごとに7-10%生存率が低下していきます。救急車を呼んでから現場到着まで**平均6分程度**かかります。

間違っ**て**はいけないことは、AEDは正常な動きをしていない心臓の動きを正常に戻す装置で、止まっている心臓を動かす装置**では**ないことです。だから「**ショックが完了**」した場合だけではなく「**ショックは必要ない**」場合もその間、心肺蘇生(心臓マッサージや人工呼吸)、を継続することが必要なのです。



救急講習会(無料)に参加しよう

日本では1日約160名の方が何の前ぶれもなく倒れ、心臓突然死(ほとんどが心室細動をおこし、心臓が止まる)しています。マラソン大会では、6万人に1人が心停止になる人がいると言われています。例えば、突然、自分の大切な家族の人が目の前で倒れたら、どうすればいいのか、どんな処置をすればいいのか、基本的な知識(応急処置)を身につけて、突然に備えることで、一歩を踏み出す勇気で「救える突然死」につながります。各市町村の消防署(事前予約要)で、救急講習会を実施しています。経験豊富な、救急隊の人が、わかりやすく講習してくれます。コースは、普通救命講習Ⅰ(3時間)Ⅱ(4時間)Ⅲ(3時間)、上級救命講習(8時間)、応急手当普及員講習(24時間、8時間×3日)指定教材費代要です。講習終了後には、修了証が交付されます。是非、参加しましょう。